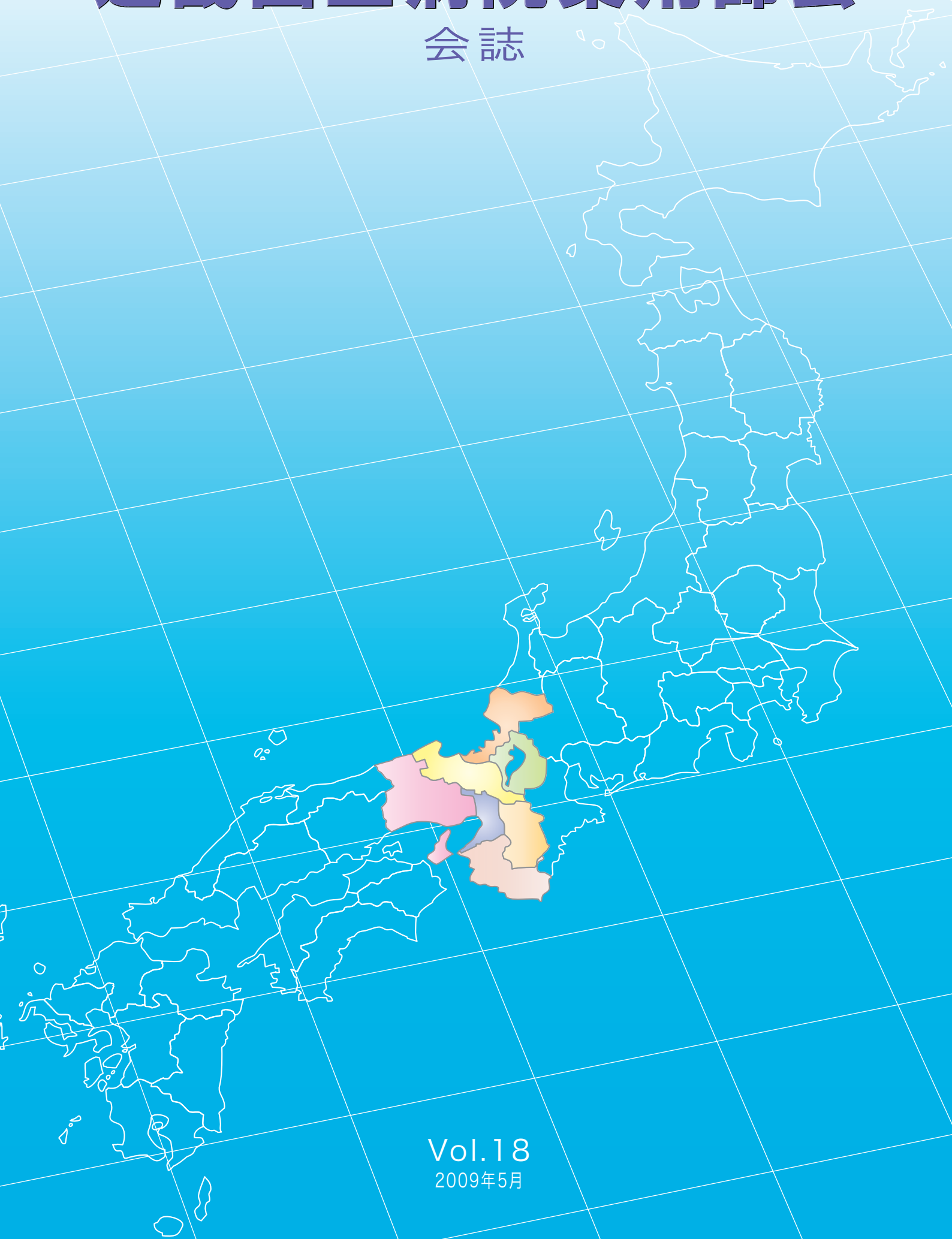


近畿国立病院薬剤師会

会誌



Vol.18
2009年5月

目 次

提言（薬剤部科長）	2
～～『これからの薬剤管理指導業務』～～	
奈良医療センター 薬剤科長 高田 耕蔵	
薬剤科紹介 あわら病院	3
平成 21 年度学術集会及び講演会報告	5
大阪医療センター 山内 一恭	
平成 21 年度新採用薬剤師研修会報告	7
松籟荘病院 田中 巧	
当院における HIV 感染症診療の現状と専門薬剤師としての関わり	10
大阪医療センター 矢倉 裕輝	
感染制御専門薬剤師、期待されるその専門性について	11
大阪医療センター 島本 裕子	
病院フェスティバルに参加して	12
大阪医療センター 田中 景子	
編集後記	14

提言

～～『これからの薬剤管理指導業務』～～

奈良医療センター 高田 耕蔵

診療がますます高度化、専門分化する中で、国立病院機構の大半の施設は医薬品情報管理責任者・医薬品安全管理責任者を薬剤（部）科に置き、医薬品の安全性・有効性を確保した上で、医薬品関連医療事故のリスク軽減に貢献しうる薬剤師業務を試行錯誤しながら推進している状況にあります。猶予される期間に余裕はありませんが以下の事が病院薬剤師に求められていると言われていています。

- ・薬剤師の独自性を認識し、「患者に医薬品が使用されること、患者が医薬品を使用すること」に全責任を負う
- ・患者個々に実践する薬学的管理を通じ、医薬品の適正使用について医療スタッフへ適切なアドバイスを行う
- ・患者個々の情報を的確に把握し、安全確保に有効な薬歴管理と、それに基づいた服薬指導を行う
- ・新薬市販後の有効性・安全性の確認のために副作用の予測をし、ファーマコビジランスを実践する
- ・薬剤師に課せられた医療安全の守備範囲は調剤室と病棟だけではなく、全ての医薬品の使用に係わる指導および管理について責任を負う

我々の前任者や現役の薬剤師により数々の山を越えてきていますが、今回の山は、かなり高い山のように思えます。しかし病院薬剤師に求められているものを要約すると、安全で有効な薬物療法の提供と、医療サービスの提供過程で起こりうる様々な問題（リスク）を、薬の専門家の視点でとらえ、薬の専門家として解決していくことであると理解できます。良質で適切な医療を安全かつ効率的に提供するためには、薬剤部（科）という狭い枠を飛び出し、医療全体が持つ問題を薬剤師の立場から考え、問題を解決するための具体的な対策を講ずることが必要になります。

現在全てのNHO薬剤師が病院機能の一翼を担う存在でありたいがために日々努力しているのには、目覚しいものがあり、現実に評価されるレベルまでできています。しかし医師がその専門分野で薬のエキスパートになれるのも、専門的な知識を身につけた上で、患者の病態に応じ薬を処方し、試行錯誤の繰り返しが経験として蓄積されてきたからであります。薬剤師においても薬学的専門知識を身に付けた薬剤師が、薬の専門家の立場で患者の病態に対し分析し、医師に対し処方提案を行い、病態に対する薬物治療・効果の確認など、試行錯誤の繰り返しにより、薬物療法のエキスパートになれると考えます。今以上の医学的知識も当然必要ですが、薬剤管理指導業務において、患者の病態に応じた処方提案を積極的に行い、患者中心の医療であることを、より深く認識し、医薬品の投与状況・効果・副作用の観察管理を現状以上に経験して蓄積されていく必要があると考えます。

薬 剤 科 紹 介

独立行政法人 国立病院機構 あわら病院

【環 境】

当院の所在するあわら市は、福井県の北部に位置し石川県に接しており、人口は約31千人です。

付近一帯は、越前加賀海岸国定公園に指定されており、眼下には波静かな北潟湖が広がる恵まれた自然条件の中に立地しています。

院内は、松や桜を初め豊かな木々に囲まれ、閑静で療養には最適な環境にあります。

【沿 革】

当院は、昭和14年5月福井県嶺北地方唯一の結核医療の拠点病院として、県立療養所北潟臨湖園の名称で創設され、昭和18年4月日本医療団に移管、さらに昭和22年4月厚生省に移管され、国立療養所北潟臨湖園として再発足しました。

その後、昭和58年4月に国立療養所北潟病院と名称を変更しました。

さらに平成16年4月1日に独立行政法人に移行し、独立行政法人国立病院機構あわら病院となりました。

【標榜診療科】

血液・腫瘍内科、リウマチ科、小児科、
リハビリテーション科等、12診療科

【病床数】

一般60床、療養40床、
重症心身障害児（者）80床



【独立行政法人国立病院機構あわら病院の理念】

基本方針 (policy)

多くの人の笑顔のために

使命 (mission)

- ・ 障害児（者）、血液・免疫、長寿をはじめ地域に求められる医療を提供します
- ・ 患者さまの目線に立って、すべての患者さまに懇切丁寧な医療を実施します。
- ・ 医療技術、安全管理の研究・研修につとめ、より質の高い医療を追求します。
- ・ 国立病院としての公共性を確保のもと、効率的で自立した病院経営を推進します。

【薬剤科紹介】

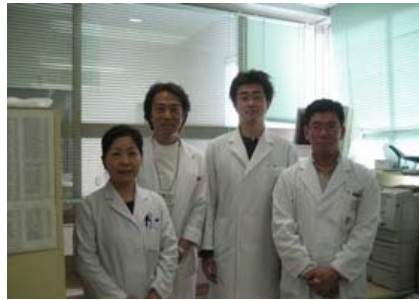
薬剤科スタッフ

薬剤科長

調剤主任

常勤薬剤師

薬剤助手の計4名です。



今年度の業務目標

- ・ 薬剤管理指導業務の充実（算定点数前年度以上）
- ・ 注射剤無菌調製業務（220件／月）
- ・ チーム内における自己役割分担の明確化
- ・ 薬学実習生の受け入れ体制整備（認定取得等）
- ・ 臨床研究の環境整備
- ・ お薬手帳等の有効活用

散薬調剤が多数を占める重症心身障害児（者）病棟を初めとする散薬分包紙への薬品名の印字、長寿医療にかかせない療養病棟への簡易懸濁法の導入、IVH や抗リウマチ薬（生物学的製剤）の無菌調製、サイクリング療法による抗菌剤の適正使用管理、抗がん剤のレジメンチェック等、少ないスタッフではありますが、できる限りの貢献をしようと日々努力しています。

また病院をあげてチーム医療に取り組んでおり、薬剤師も ICT、NST、褥瘡チームの一員として参画しています。また今年度は緩和ケアチームも立ち上げます。あわら病院ではがん患者のケアだけでなく、非がん疾患にも対応をする必要があります。

地域住民への啓蒙活動として、健康教室を開催しており、入院・外来患者、地域住民を対象とした健康に関する話題を提供しています。また、実際に昼食を食べながらの「見て聞いて味わってわかる生活習慣病教室」も毎月1回開催しています。

さらに、地元自治会、婦人会、学校等へ出向いて行う「出張健康教室」も軌道に乗り始めました。すべてチームとして活動しており、薬剤師も講師をしたり、サポートに回ったりと奮闘しています。

オーダリングも導入されていない小さな病院ですが、必要なところに知恵を注ぎ込むことで順調な経営状態にあり、職員一丸となって頑張っています。その一員として薬剤師も専門性を十分に発揮していきたいと考えています。

（文責 田中 三晶）

平成 21 年度学術集会及び講演会報告

大阪医療センター 山内 一恭

平成 21 年 3 月 7 日に大阪コロナホテルにて学術集会ならびに業務検討委員会主催講演会が、会員 114 名の参加のもと開催された。演題は以下の通りであり、活発な意見交換が行われた。

○学術集会演題

1. パーキンソン病患者の薬物調整 ～医療チームとしての服薬支援～
宇多野病院 奥田直之
2. 重症筋無力症患者が不眠を訴えた症例
宇多野病院 小田亮介
3. 家族性痙性対麻痺の症例を通じた薬剤師のかかわり
宇多野病院 福田幸彦
4. 薬剤師主導の薬学的安全管理の評価と今後の展望 第1報 ～プレアボイド収集報告体制から～
国立循環器病センター 田中佑佳
5. 薬剤師主導の薬学的安全管理の評価と今後の展望 第2報 ～医薬品安全性情報報告体制から～
国立循環器病センター 西口絵理
6. 呼吸器科病棟における服薬支援と薬剤師の関わり
滋賀病院 川口ともね
7. インフリキシマブ使用全例追跡調査結果からの安全性の検討
京都医療センター 山田雄久
8. がん性神経障害性疼痛に対するリドカインゼリーの使用経験
大阪医療センター 海家亜希子
9. 深部静脈血栓症とHIV感染症の合併症例に対し、WarfarinとFosamprenavirを併用した一例
大阪医療センター 宮田美知
10. 当院におけるRA患者に対するTocilizumab導入状況について
大阪南医療センター 井谷裕美子
11. Helicobacter pylori除菌療法中に重篤な低血糖を発現したSU剤服用患者の一例
兵庫青野原病院 平松 彰
12. 心臓移植患者のシクロスポリンからタクロリムスへの切り替えに伴うミコフェノール酸の薬物動態パラメータの変動についての検討
国立循環器病センター 中野一也
13. 尿中グルカリン酸測定の意義とPaclitaxel療法への応用
大阪南医療センター 大西佑果

1 4. ICT活動における薬剤師の取り組み ―カルバペネム系の使用について―

南和歌山医療センター 丸山直岳

○講演会

演題 「「臨床研究に関する倫理指針改正について」

講師 国立循環器病センター 臨床研究開発部室長 山本 晴子先生

平成20年7月31日に告示され、平成21年4月1日に全面施行される臨床研究に関する倫理指針の改正点について、デジジョンツリーに基づく医学系研究の分類、指針の対象、症例の取り扱いを詳細に解説して頂いた。これまで臨床研究に関与していた先生には、明確に整理・理解できたものと思われる。また、関与していない先生にも、今後学会発表等をする場合の取り扱い、手続き等については、理解して頂きたい点であり、学術集会と同日に開催した講演会としての的を射た演題であったと思われる。

以上

平成 21 年度新採用薬剤師研修会報告

松籟荘病院 田中 巧

* 下記の日程、講師で新採用薬剤師研修会を実施した。

開催日時：平成 21 年 4 月 18 日（土） 13：00～17：10

開催場所：大阪医療センター 地域医療研修センター 3 階研修室

1. 会長挨拶：小原 延章（国立循環器病センター 薬剤部長）（13:00～13:05）
2. 委員紹介（13:05～13:10）
3. 講義 1 「近畿国立病院薬剤師会とは、機構とは」（13:10～13:30）
講師：田伏 成行（近畿中央胸部疾患センター 薬剤科長）
4. 講義 2 「薬剤師が知っておくべき法律」（13:30～13:50）
講師：田中 巧（松籟荘病院 薬剤科長）
5. 講義 3 「調剤業務について」（13:50～14:10）
講師：仲野 秀昭（姫路医療センター 薬剤科長）
6. 講義 4 「注射・無菌調製・抗がん剤調製業務について」（14:10～14:30）
講師：堀内 保直（滋賀病院 薬剤科長）
7. 休憩（14:30～14:45）
8. 講義 5 「薬剤管理指導業務について」（14:45～15:05）
講師：覺野 律（舞鶴医療センター 副薬剤科長）
9. 講義 6 「医薬品情報管理業務について」（15:05～15:25）
講師：高田 雅弘（京都医療センター 製剤主任）
10. 講義 7 「薬務業務について」（15:25～15:45）
講師：石田 幸雄（あわら病院 調剤主任）
11. 講義 8 「治験業務について」（15:45～16:05）
講師：和田 洋忠（神戸医療センター 薬剤科長）
12. 休憩（16:05～16:15）
13. 懇談会（16:15～16:35）
* 司会進行：田伏 成行（近畿中央胸部疾患センター 薬剤科長）
14. 特別講義 「薬剤師を取り巻く環境」（16:35～17:05）
講師：中多 泉（薬事専門職）
15. 閉会の挨拶：和田 洋忠（神戸医療センター 薬剤科長）（17:05～17:10）

* 総合司会進行 岡田 博（国立循環器病センター 副薬剤部長）

参加人数 13 名

講義内容

講義 1 「近畿国立病院薬剤師会とは、機構とは」

- ・ 会の規模・位置づけ（近畿 2 府 5 県、会員数：約 240 名、施設数：21、任意団体、上部団体への所属はないなど）
- ・ 職員数（近畿 20 施設 8300 床 NC 除く、薬剤師数：定員約 230 名、非常勤 7 名など）について
- ・ 地区会（京都北部・福井地区、京都南部・滋賀地区、兵庫南部地区、大阪北部・兵庫東部地区、大阪南部地区、奈良地区、和歌山地区）について
- ・ 事業（各委員会が企画する講演会の開催、新採用薬剤師研修会、学術集会、会誌の発行、ホームページ・名簿作成など）について
- ・ 委員会の構成・活動（教育研修委員会、臨床業務委員会、業務検討委員会など）について
- ・ 会の歴史について
- ・ 第 2 期中期計画策定について

講義 2 「薬剤師が知っておくべき法律」

- ・ 薬剤師法（薬剤師の任務、薬剤師の業務等）について
- ・ 薬剤師の責任（民事責任・行政責任・刑事責任等）について
- ・ 個人情報保護法について
- ・ 判例 1～3、最近の事件 1～2
- ・ これからの服薬指導のポイント

講義 3 「調剤業務について」

- ・ 調剤の流れ（処方箋受付～処方監査）について
- ・ 医療過誤事例について
- ・ 疑義照会（応答のポイント）について

講義 4 「注射・無菌調製・抗がん剤調製業務について」

- ・ 注射剤業務の流れ（処方箋受付、監査、調剤、患者ラベル貼付、監査、交付）について
- ・ 処方監査の注意点について
- ・ 配合変化を起こしやすい薬剤について
- ・ 無菌調製（抗がん剤を含む）について
- ・ 無菌調製の注意事項について
- ・ 抗がん剤投与時の注意事項について

講義 5 「薬剤管理指導業務について」

- ・ 薬剤管理指導業務とは
- ・ 業務内容について
- ・ 薬剤管理指導料について
- ・ 服薬指導業務の流れについて
- ・ 薬剤管理指導記録の記載について
- ・ 服薬指導事項・服薬指導時の留意点・面談時の留意点について
- ・ 指導録の記載方法について

- 講義 6 「医薬品情報管理業務について」
- ・ 医薬品情報（DI）歴史的流れについて
 - ・ 病院における DI の具体的業務について
 - ・ 医薬品情報の必要性について
 - ・ 医療従事者からの問い合わせの対応について
 - ・ 医薬品・医療機器等の安全性情報報告制度・プレアボイド等について
 - ・ 緊急安全性情報・医薬品医療機器等安全性情報・DSU について
 - ・ 重篤副作用疾患別対応マニュアルについて
 - ・ 信頼性の高い情報源—成書・雑誌、専門用語・法規などに関する書籍について
 - ・ 医療と I T について
- 講義 7 「薬務業務について」
- ・ 薬品管理業務について
 - ・ 発注・検収・棚卸しについて
 - ・ 薬事委員会について
 - ・ 病棟配置薬について
 - ・ ABC 分析について
 - ・ 費薬について
 - ・ 後発医薬品について
 - ・ 標準的医薬品について
- 講義 8 「治験業務について」
- ・ 臨床研究と治験について
 - ・ 薬の開発プロセスについて
 - ・ 治験の 3 原則（倫理性・信頼性・科学性）について
 - ・ 薬剤師の治験とのかかわりについて
（CRC の業務内容・治験薬の管理等）
 - ・ 国立病院機構における治験の位置づけについて
（臨床研究事業・診療事業・教育研修事業）
 - ・ 国立病院機構における治験の推進方針について
- 特別講義 「薬剤師を取り巻く環境」
- ・ 環境の変遷について
 - ・ 調剤の定義、服薬指導、医薬品の適正使用について
 - ・ 薬剤師法・医療法の改正・診療報酬改定について
 - ・ 国民医療費と対国民所得費の年次推移について
 - ・ 我が国の財政状況について
 - ・ 医療の I T 化について
 - ・ 医療機能評価について
 - ・ 病院における薬剤師の業務及び人員配置について

以上

当院における HIV 感染症診療の現状と 専門薬剤師としての関わり

大阪医療センター 矢倉裕輝

当院の HIV 感染症診療の現状は、カルテ数はのべ 1500、その内、薬剤師面談患者数のべ 1100 人、外来患者の 1 ヶ月平均の服薬指導件数は 120 件、入院患者は 20 件程度、昨年 1 年間に新たに薬剤師が面談を行った患者は 220 人で、現在外来、入院を担当薬剤師 2 人で対応しています。

HIV 感染症診療のチーム医療における薬剤師の重要な役割として、抗 HIV 薬服薬開始前の服薬相談があります。抗 HIV 薬は、正確かつ確実な服薬を行わなければ耐性ウイルスを誘導する可能性があるため、患者の服薬に対する認識が重要となります。

そのため、患者のライフスタイルについて聴取し、医師から提示された服薬メニュー案の各薬剤について服薬方法、服薬条件、予想される副作用の頻度等について情報提供を行い、継続服薬を行う上で最適な抗 HIV 薬のメニュー、服薬時間について患者と相談し、最終的に患者を自己決定に導きます。また、現在の薬剤ではウイルスの抑制は可能となりましたが、体内からのウイルスの駆逐は難しく、ほぼ一生涯の服薬が必要とされているため、服薬後の副作用等が安定しても定期的に服薬状況、服薬に対する意識の確認等の服薬支援が重要となってきます。

さて、皆さんは『専門薬剤師』にどのようなイメージを持たれているのでしょうか？専門という位だから、その疾患のみに特化している、というイメージでしょうか？私の考える専門薬剤師制度は、薬剤師としての目標について考えている、もしくは定まっていない若い先生方のよい道標になるのではないかと思います。その理由として、専門薬剤師になる要件に認定薬剤師の取得、学会発表、論文作成等があります。認定薬剤師は、学会、研修等、自己研鑽の積み重ねにより認定されるものであるため、ジェネラリストの証であると思います。また、学会発表は短期間の目標の策定、テーマについて調査等を行うことにより、疾患や薬剤の内容に関し、更に知識を深めることがつながるものと思います。その積み重ねが『スペシャリスト』である、専門薬剤師の取得につながると思います。

ですから、専門薬剤師は、その分野に『特化』するというのではなく、自己研鑽するための『とっかかり』と考えてみても良いのでは？と思います。

感染制御専門薬剤師、期待されるその専門性について

大阪医療センター 島本 裕子

感染制御専門薬剤師の認定は、日本病院薬剤師会によって平成 17 年度より開始されており、平成 21 年 5 月現在、177 名が認定されている。

感染制御分野において薬剤師が担う重要な役割のひとつとして、抗菌薬の適正使用推進が挙げられる。現在私は院内感染対策チーム(ICT)に所属しており、主に抗菌薬の TDM 関連業務を行なっている。そこで今回、TDM 業務を中心に、感染制御分野において期待されると考える薬剤師の専門性について述べる。

感染症治療における抗菌薬の位置づけは非常に重要性が高いため、医師の関心も高い。とりわけ、研修医をはじめとする若手医師には熱心に勉強されている方も多く、抗菌薬の PK/PD(pharmacokinetics / pharmacodynamics)について、時には詳細な質問をされる場合もある。また、感染症専門医が持つ抗菌薬についての知識は非常に豊富であり、残念ながら、そこに薬剤師の存在を必要とされないことも多い。こういった状況の中、薬剤師がその専門性を発揮できる分野であると考えられるのが TDM である。当院においては、バンコマイシン(VCM)の TDM を平成 18 年 9 月より開始しており、その解析実施累積件数は 800 件を超える。血中濃度解析は医師からの依頼制で実施する病院が多い中、当院では検査科が測定した全ての VCM の検体について血中濃度解析を実施している。このように積極的に TDM を実施することにより、依頼していないにも関わらず薬剤師が介入することに当初は戸惑いの見られた医師側からも、現在では投与方法に関するコンサルトが数多く寄せられるようになってきている。ただ、VCM の投与計画立案だけにとどまらず、抗菌薬の投与期間や抗菌薬変更のタイミングなど、感染症治療のマネジメントに関わる質問を寄せられることも多い。このような場合は薬剤師が関わる範疇を外れると考えられるため、ICD(Infection Control Doctors)にも介入を依頼する。チーム内の他職種(医師、看護師、検査技師)との密接な連携も抗菌薬適正使用の推進には重要である。

VCM は重症患者に投与される薬剤であるため、その血中濃度コントロールは時に生命を左右することもある。そのため責任も重大であるが、患者の状態が軽快した際に主治医がベッドサイドに私を呼び寄せ、「この薬剤師さんが、抗生物質を体の中でうまく効くようにずっと一緒に見てくれていたんですよ。」と患者に紹介してくださった時に感じた嬉しさは、その後のモチベーションにも繋がっている。

医師向けの感染症治療の成書にも、「抗菌薬の TDM には、TDM 専門の薬剤師の存在が望ましい。」と記載されており、この領域における薬剤師の活躍が期待されている。「抗菌薬」を用いた治療という、医師と知識が重複しがちな感染症治療、感染制御の分野において、TDM を活用することで今後さらに薬剤師がその専門性を確立することが可能であると私は考えている。

病院フェスティバルに参加して

大阪医療センター 田中 景子

平成 21 年 5 月 17 日に大阪医療センターにて初の試みである病院フェスティバル、“アドベンチャーHospital in 大阪医療センター”が開催され、参加致しました。参加者の対象は、近隣の中高生・保護者の方々であり、新型インフルエンザが猛威を振るっていたにも関わらず、221 人の方が足を運んで下さいました。

目的は、

- ・ 地域医療機関として地域に病院を知って頂く
- ・ 病院の PR
- ・ 将来の医療人の確保対策
- ・ 職員のコミュニケーションを図る

というものでした。実際には、各職種の業務の説明、モデルを活用し、オペ、看護、調剤、リハビリ等の各職種の業務を体験したり、一日院長、カレーやサンドウィッチなどの出店等、盛り沢山のイベントでした。また今回は、新型インフルエンザが流行していたため、感染予防対策について正しい手洗い・うがいの励行、マスクの着用の指導も行われました。

薬剤科では、職場の紹介コーナー、調剤体験、調剤室の見学、進路相談をしました。

薬剤科の紹介コーナーでは、ポスターを使って、薬剤師とは？という話から始まり、医薬品、ジェネリック医薬品について、医薬分業について等、最近の話題と、大阪医療センターでの薬剤科の紹介（調剤、製剤、無菌室、医薬品の管理、災害対策、DI、服薬指導、チーム医療、治験等）を分かりやすく掲示しました。



調剤体験では、処方箋に名前を書き、調剤をして頂きました。今回調剤するものはお薬ではなく、誰でも馴染みのある M&M のチョコレートでした。錠剤包装機を使って一包一包、名前入りの袋にチョコレートを分包したり、インスタントコーヒーとクリームを量り、自動散薬分包機を使って撒いて貰いました。参加された人は初めての体験なので、分包機に釘付けであり、時に行列が出来るほど人気がありました。実際に調剤して、「粉薬飲んだことあるけど、こんな風にして出来ていたんや。」と声を頂いた時、薬局でお薬を貰う時に、お薬の説明を受けるだけでなく、患者さんにお薬が渡るまでの過程でも薬剤師がどのような仕事をしているのか知って頂くいい機会になったなあと思いました。



進路相談においては、薬剤師になるにはどのような大学に行かないといけないのか、卒業後の進路先、何故薬剤師を目指したのか等、特に親御さんが熱心に質問されていました。また、中学生が何人か進路相談に来ていたので、中学生でやりたいことを真剣に考えているということに非常に感心すると共に、薬剤師という仕事に興味を持ってくれたことを嬉しく思いました。

医療を取り巻く環境は依然厳しいものがありますが、中高生にとって、この病院フェスティバルで興味のある職業について現場で働く人達の生の声を聞き、また、様々な職業について体験したことが、貴重な体験となり、これから進路を考える上で1つのきっかけになるような取り組みになったのではないかと思います。また、薬剤師業務の重要性と魅力をアピールできる絶好の機会になったと思いましたが、これからもっと色々工夫し、参加される方にとってもまた病院にとっても充実したフェスティバルになっていくことを期待しております。

私自身、大阪医療センターに採用になり、1ヶ月半ですが、貴重な体験ができ、またフェスティバル終了後の反省会？は、フェスティバル開催時間と同じ、5時間も盛り上がり、大変充実した一日でした。

編集後記

★新年度が始まり 2 ヶ月経とうとしていますが、皆様お元気でしょうか。転勤、採用された方も施設に十分馴染まれたでしょうか。また初めての単身赴任・一人暮らしを釣り、ゴルフ等々で満喫されている先生もいらっしゃるのではないのでしょうか。くれぐれも羽目を外し過ぎませんように・・・。

★GW 前から新型インフルエンザが流行しています。弱毒性のようですが、感染力が強く、各施設の感染対策に関わっている先生は、対応に追われていたのではないのでしょうか。巷ではマスクの入手が困難なようで・・・。マスク会社の株を買っていたのは先見の明？それともインサイダー？

★さて、今回は昨年度、専門薬剤師を取得された 2 名の先生に業務の内容と後進へのメッセージを投稿していただきました。また大阪医療センターで新型インフルエンザにも負けず開催された「病院フェスティバル」の参加記を掲載しました。お楽しみいただけただでしょうか。次回発行は 8 月の予定です。夏休み真っ最中ですが、投稿をお待ちしています。

近畿国立病院薬剤師会会誌

第十八号 平成 21 年 5 月発行

発行元 近畿国立病院薬剤師会事務局

大阪市中央区法円坂 2-1-14

(独立行政法人国立病院機構大阪医療センター薬剤科内)

発行人 会長 小原延章 (循環器)

編集 広報担当理事

山崎 邦夫 (刀根山)

広報委員

石塚 正行 (神戸医療)

中西 彩子 (大阪南医療)

廣畑 和弘 (近畿中央)

堀内 保直 (舞鶴医療)

本田 富得 (神戸医療)

宮部 貴識 (近畿中央)

矢倉 裕輝 (大阪医療)

山内 一恭 (大阪医療)

(K. Y)

近畿国立病院薬剤師会ホームページ <http://www.kinki-snhp.jp/>